

日韓市民連帯“平和共存フォーラム”in春川市

“北東アジア平和共存に向けた日韓平和フォーラム”が2019年12月5～7日韓国の春川市ハルリム大学において催されました。

2018年の韓国における徴用工の大法院での判決、そして2019年日本政府による韓国への経済制限・ホワイト国はずしによって日韓政府間は厳しい状況に。そのような中日本の市民レベルでの日韓交流を続けている“希望連帯”(白石孝代表)が8月ソウル市を訪問。パクウオンスン・ソウル市長との会談でソウル市長は「政府間が厳しくともローカル TO ローカル、ピープル TO ピープルで市民の交流こそ大切」とのメッセージを。



そして今回春川市ハルリム聖心大学平和研究所所長であるユンジェソン教授からの呼びかけに日本の市民団体がこたえ全国から約120人ほどの参加をもって日韓平和フォーラムが開かれました。

ユン教授は開会の辞で「地理的にも韓国と日本は永遠に引越することが出来ない、本当に近い国です。歴史的に韓国と日本は仲が悪かった時期よりもお互いに友好的であった時期がはるかに多くありました。」「日韓友好関係は両国市民の協力によって成し遂げるべきという願いを共有した市民が一緒に集まった意義深い場です。」「今日第二次世界大戦の痛みから胎動した日本の平和憲法と韓国戦争の傷として残っている DMZ を両国市民の協力によって北東アジア地域における平和遺産として構築していくことを提案します。」と今回のフォーラムの意義を語りました。

基調報告では100歳になられたキム・ヒョンソク延世大名誉教授から今の“開かれた社会”“多元的社会”において日韓が人道主義的“和解”と共存の模範を示す必要性を語られました。

秋葉忠利元広島市長は「被爆の実相」と「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」ということをあわせた“ヒロシマの心”の視点から加害者と被害者の“和解”への道を語りました。更に“北東アジア非核地帯条約(韓国・日本・朝鮮民主主義人民共和国は核兵器を持たずその周辺の中国・ロシア・アメリカは三ヶ国を核攻撃しない)”と“防衛省を防災省として災害救助隊”として世界へ貢献していく方向性も提案しました。



東アジア平和共存への提言として、小森陽一さんと系数慶子さん、イ・スファン前駐日大使等のお話。

イ・スファン前駐日大使は1998年小渕・金大中パートナーシップ共同宣言で示された“ツートラック外交”(過去史の要因と未来への要因を实事求是で外交を)によって現在の日韓間の問題を解決すべきと。系数さんは以前カジノの問題で「河原ランド」を視察に訪れたことを語り、平和共存を求めての今回のフォーラムで沖縄の現状0.6%の面積に73%の在日米軍がある中での人権侵害が続いている厳しい状況を語りました。そして“平和でなければ人間が人間らしく生活できない”“9条のある日本の姿からして防衛省を防災省に変えるべき”と訴えました。

午後後半の分科会では、日韓地方政府間交流や、福祉協力としての学校給食と有機農業について、日韓の経済的関係、マスコミの役割、ユネスコ世界文化遺産、日韓安全保障など 8 つに分かれての発表と討論がおこなわれました。ふじしろ政夫は「学校給食と有機農業」のセッションで討論者として参加しました。(詳しくは HP の資料参照)

分科会後の総合討論が南京民間抗日戦争博物館館長・金沢アジア太平洋平和フォーラム代表・宇都宮弁護士・小寺原爆の丸木美術館理事長からそれぞれありました。

小寺さんは日韓の慰安婦・徴用工の問題に対し人間として向き合おうとしない風潮を批判し「人間として向き合う必要がありその姿勢こそ文化なのです」「文化とは抑圧された者の心を表現するもので誰でも出来るのです」と。そして人間のイマジネーションの喚起を促しました。



1945 年以降核の時代の戦争への想像力が必要。国家の立場から考える核の傘・核の抑止力では平和を守るか?と問題提起し“核兵器は絶対悪”の視点から核兵器禁止条約が生まれてきたことを示しました。核の抑止力神話から脱することの必要性和国の視点でなく人の視点に立つ人間の安全保障を日本・韓国・北朝鮮・中国が理解する必要があり、これによって北東アジアの非核平和の基礎が得られるのですと訴えました。

更に、丸木美術館に展示されている“カラス”の絵が示す意味を説明しました。長崎の原爆で被爆した 1 割が朝鮮の人々であったこと、そしてその朝鮮の人々の遺体への対応は後回しにされカラスに目玉をつつかれていたその状況を丸木さんは“カラス”として描いた。

侵略の責任をきちんとしなければヒロシマ・ナガサキへの共感は得られない。被爆者の方々も“日本の謝罪をしてからヒロシマを語る”ことで核兵器禁止条約を作ることが出来た。朝鮮・韓国にいる被爆者を考える必要がある。徴用工の人々も被爆しているのであり、戦後日本政府からの医療的支援を 2015 年の最高裁判決までまったく受けずにきている。

“カラス”の意味するところは・・・戦争責任に向き合っていないなかで、日本は韓国にいる被爆者に対して何をしてきたのか?民衆の思想レベルで核の傘をどう打ち破っていけるのか?“歴史認識へのもう一步踏み込んだ日本の被爆者と朝鮮の被爆者との連帯”へこのフォーラムが役立って欲しいと語りました。

12/6 朝から夕方までびっしりのフォーラムでしたが時間が短く十分な議論が出来なかったのが残念です。また多くの発言者の多岐に渡る深く・鋭い問題提起と指摘を十分に咀嚼する時間を持たず帰国してからもう一度読みかえてその意味を自分の言葉で考え直しています。



日本社会のそして韓国社会の課題と問題点をどう解決していくのか?日韓市民が共に 21 世紀の新しい地平を切り開く経済・社会・福祉・政治を作り上げていく中で北東アジアの非核平和地帯を構築していかなければ・・・。DMZ が平和と生物多様性の世界遺産となることの意味、日本国憲法を“今こそ旬”として平和主義・普遍的福祉を実現していく意味を、私たち市民の市民活動・社会活動を実践していく中から示していきたいものです。

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144

*活動報告をホームページに掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。